



水沢高校全校生徒をはじめ1000人を前に講演

市は「心といのちの大切さを考える講演会」を10月31日、市文化会館で開催しました。県内の自殺死亡率が高い状況で推移する中、心に問題を抱える若者を早期に支援するため、芥川賞作家の平野啓一郎氏が「自分を見つめよう」と題して講演を行いました。平野氏は「環境と状況に応じてさまざまな顔を使い分ける分人主義は誰にしもある。分人した一部を否定されても、残りの分人を自愛することで生きていける」と自分を追い込まない生き方を提案しました。

「生き心地のよい地域社会をつくるため」



協定書を手にする榎部長(左)と小沢市長

市は10月27日、(株)バイタルネット(本社・仙台市、一條武社長)と災害時における物資供給に関する協定調印式を行いました。医薬品の販売などを行い独自の物流インフラを持つ同社との協定により、災害発生時の一般用医薬品やオムツなどの衛生用品の円滑な供給が期待されます。小沢市長は「震災の経験から協力体制が複数必要と感じていた。非常に力強い」とあいさつ。榎部長は「いつでも役立てるよう社員一丸取り組みたい」と応えました。

「災害時の物資の供給に向けた協定締結」

みざわ 案外できるかも？縄文生活  
縄文人なりきり体験



まいぎりで起こした小さな火種にそっと息を吹きかける

縄文人なりきり体験が10月23日、市埋蔵文化財調査センターで開催されました。このイベントは、電気も水道もない時代に人はどんな暮らしをしていたかを、さまざまな体験を通じて学ぼうと企画されたものです。参加者は初めに縄で編んだ衣装をまとい、縄文時代にタイムスリップ。弓矢で的を狙った狩猟、まいぎりをを使った火起こし、石を使ったくるみ割りなど、悪戦苦闘しながらも当時の生活を楽しく体験しました。仲良し3人組で参加した酒井結輝くん(水沢小5年)と渡部陸くん(同小2年)、拓くん(年中)兄弟は「弓矢体験では百発百中」「くるみ割りが楽しかった」「縄文人の生活してみたい」と普段できないことに触れた喜びを話してくれました。

まえずわ 中世の白鳥館を体験しよう  
白鳥館遺跡・鮎まつり

白鳥館遺跡・鮎まつり(同実行委員会主催)が10月16日、白鳥館遺跡と白鳥地区防災センターを会場に開催されました。秋晴れとなったこの日、多くの家族連れが会場を訪れ、限定300食の北上川産天然アユの塩焼きやはっと汁などに舌鼓を打ったほか、宝探しゲームやちびっこ弓矢体験など多彩な催しを楽しみました。

焼き立てのアユを食べた前沢小2年の佐々木奏空くん(8)は「とてもおいしかった。来年もまた食べにきたい」と顔をほころばせていました。



中世の衣装に身を包んだ係員とアユの塩焼きがお出迎え

いさわ 収穫の喜びを手刈りで実感  
内田ため池「田んぼの学校」稲刈り

農業体験活動「田んぼの学校」の稲刈りが10月2日、胆沢区若柳の内田ため池周辺で行われました。昔ながらの農法を体験しながら生態系保全の大切さや田との関わりなどを学ぶ活動に、地元住民やふるさと愛宕っ子隊、岩手大学の学生など約90人が参加しました。

岩手大学3年で同大ため池サークル「ike-ic」の高橋千尋代表(22)は「地元の皆さんに教えてもらい段々と上達してきた。みんなで楽しみながらできる貴重な体験です」と笑顔を見せていました。



刈り取った稲を束にまとめる「ike-ic」のメンバーたち



デザイン性に富んだ鉄器に目を奪われる

みざわ ブランドに秘めた技術知る  
第37回市南部鉄器まつり

第37回奥州市南部鉄器まつりが10月8日と9日の両日、市鑄物技術交流センターで開催されました。「世界ブランド」南部鉄器の作製に秘めた伝統の技と先進技術を多くの人に知ってもらおうと、作品展示、値引き即売などさまざまなイベントで会場が盛り上がりました。

鉄下駄飛ばし大会小学生の部で優勝した羽田小5年の今野暁弥くん(11)は「この大会を楽しみにして来た。狙っていた記録には届かなかったけど優勝できてよかった」と友達に囲まれ、誇らしげに話しました。



ゴールまであと少し、笑顔でラストスパート!

えさし ロケ地を楽しみながら快走  
えさし藤原の郷RUN★ラン!らん♪

えさし藤原の郷RUN★ラン!らん♪が10月23日、歴史公園えさし藤原の郷で行われました。来年5月開催のいわて奥州きらめきマラソンのプレイベントとして同マラソン実行委員会などが主催。伽羅御所や金色堂、経清館など園内を回る約2kmに39人が挑みました。

同着1位に輝いた江刺第一中2年の及川元くん(14)と菊地晴粋くん(13)は「アップダウンが多くきつかったけど楽しかった。きらめきマラソンにもぜひ出たい」と本番への意気込みを語りました。